

【鶴見資源選別センターの再整備事業】

Yopp 令和6年12月PPP勉強会 公民グループ対話メモ

開催日：令和6年12月25日

所管課：資源循環局 施設課

参加者数：15人【業種別】建設3人、金融2人、サービス4人、製造4人、その他2人

設問1：本市が期待することや重視することを踏まえた最適な事業スキーム

【主な意見】

<本事業の事業手法などについて>

- 市の土地を使えるのであれば、どの事業スキームであっても参画できると思う。
- 概ねどの事業スキームでも対応可能であり、BTOでも実績があるので、全体コーディネートを含めて対応が可能だと思う。その他の方式についても実績があるので柔軟に対応します。
- どの事業スキームでも対応可能だが、横浜市が想定している事業概要や期待していることを考えるとBTOが最も適していると感じる。
- 横浜市の支出額の平準化から考えるとBTOが最も近い気がするが、その他の方式についても対応可能。
- 民設で民が一定期間保有して最後に備忘価格で市に売却するか、解体して土地を返すというのが、民間資金を最大限活用できていると考えているため、BOOかBOTが適していると思う。
- 当社が把握している他のPFI事例を踏まえるとBOTが適していると感じる。
- リサイクル施設建設の経験が無く、最適な事業スキームの考え方については、今回のプロジェクトを通じて知見を積んでいきたい。

<SPCの設立について>

- SPCの設立については知見や経験があるので、滞りなく対応出来ると思う。
- SPCはプラントメーカー等と組むことになると思う。
- 複数実例があるので、SPC設立に関しては特に問題ないと思っている。
- 今回の再整備事業は建設メインというよりは設備工事がメインとなるため、ゼネコンがSPCの代表企業になるのは馴染まないと思う。

<スケジュールについて>

- 解体工事もあり、地下部の様子もわからないので、令和11年竣工は結構タイトなスケジュール設定と考える。
- SPCの設立を含めてファイナンスの調整などは問題無いと思っている。3年程度で仕上げるためには、仕様が早々に合意できるかがポイントだと思う。事業者の選定や仕様確定が早ければこのスケジュールで対応可能だと思う。
- この規模の施設では解体を含めて3年半から4年位は必要だと思う。

- 今回のグループ対話に参加されている皆様のご意見を伺うと、スケジュールがタイトな感じはするが、建築工事を工夫することで少しでも工期が短く出来ると考えている。

<業務分担について>

- 横浜市が考える業務分担案はオーソドックスだと思う。この範囲が無難なラインなのかなと思う。
- 缶・びん・ペットボトルの資源化方法について、これまでよりもリーズナブルなやり方が出来るのであれば検討したいと思う。
- 将来を考えると、選別後の缶・びん・ペットボトルなど成果物の取り扱い（資源化方法、帰属先）は柔軟な発想は持って取り組んだほうが良いと思う。
- 選別後の成果品の取り扱いについては、資源循環に関する国の制度や方針を視野に入れ考える必要がある。

設問 2：事業への参入意欲

【主な意見】

- 参入意欲はある。（他 7 社同意見）
- 環境教育なども含め様々な活躍ができる分野が自社にあると思うので、総合的に貢献が出来ればと思う。

設問 3：事業実施において、考慮して欲しい事項

【主な意見】

- 解体・建設等の事業スケジュールをもう少し長く設定して欲しい。
- 建設予定地は少し狭いと思われるので、隣接した鶴見工場の敷地や設備等を活用できるのであれば考慮して欲しい。
- 事業者の評価に関してはファイナンスの専門家を横浜市側アドバイザーとして選任することも視野に入れて欲しい。
- 市内企業の参画の可能性を拡大して欲しい。

その他自由意見

【主な意見】

- 人手不足は今後、更に深刻になっていくと思われるので、選別作業における機械化は否めないと思う。でも、機械化したからと言っても人手は必要なため、人員配置について柔軟に対応出来る体制をとりたいと思う。
- 現在、作業に従事されている皆様と共に連携しながら事業を行いたいと思う。現在の雇用は出来るだけ確保したいと思っている。
- 日本国内の技術だけでなく海外の技術を駆使してほぼ全自動化でやれるように考えたい。
- 太陽光発電を設置して発電所としての機能を持たせたい。
- 世界的に見るとインフラをアウトソーシングで受けている企業は沢山事例がある。
- 横浜市が災害に直面した際の BCP を含めて連携していければと思う。

以上